片手に福祉、片手に算盤で未来を見据える

中期経営計画から“Vision2030”へ

経営基盤の再構築
人材育成と生産性
ﾊﾞｯｸｷｬｽﾃｨﾝｸﾞ思考

とみたけのさとでいさーびすせんたー

富竹の里デイサービスセンター

長野県　長野市

かんりしゃ　たじり　しゅん

管理者　田尻　俊

E-Mail Address　koujinkai@tomitake-carenet.com

今回の発表の施設またはサービスの概要

since 1986

定員：35 名(利用登録 90～100 名)　職員：17 名(兼務・運転手含む)
通常規模型　/　サービス提供時間 9：30～16:00(6-7 時間)
平均年齢：89.2 歳　/　平均介護度：1.8　/　中重度者割合：33.0%

どこまでいっても 100%の正解がない中で、「人の心」は、残り数%を埋めていく重要なファクターとなり得るのか。そして、それは取り組みの原点であり到達点、すなわち“アルファでありオメガ”となり得るのか。本発表は、フォーキャストの視点で今を読み解き、バックキャストの視点で未来を描いた、4 年間のストーリーと実践事例です。

＜取り組んだ課題＞

●経営基盤再構築 ～稼働率 66.7%からの立直し～
●人材育成の強化 ～人は城、人は石垣、人は堀～
●2030 年を見据えて ～地域・社会の持続性～

＜具体的な取り組み＞

●経営基盤再構築：3 つの見える化
①経営状況の見える化
・データ分析により経営課題を明確化
②進捗状況の見える化
・“対目標値”の視点で意識改革
③満足度の見える化
・利用者アンケートによる現状把握

●人材育成の強化：3 つのカギ
①人材育成のカギ＝“自事業所の強み”
・目指すサービスと人材像
②事業継続のカギ＝“職員の定着”
・社会の変化(地域性)に適応する働き方
③生産性向上のカギ＝“現場の声”
・管理者主導から現場主導への組織再編

●2030 年を見据えて：3 つの未来
①事業所目標として“Vision2030”を策定
②全世代型 ACP の定着
③持続可能な地域・社会、そして事業所へ

＜活動の成果と評価＞

●経営基盤の再構築
①稼働率の向上
・令和 3 年度：66.7%➡令和 7 年度：77.5%
②根拠のある目標設定
・“稼働率＝登録率－20%”の方程式
③利用者サービス満足度の維持・向上
・令和 5 年度：95.4%➡令和 7 年度：98.2%
④人員増ではなく、ICT の活用
・効果的な業務効率化と生産性向上
⑤ニーズ×ニーズ＝新しい企画
・フリーランス管理栄養士との共同企画

●人材育成の強化
①働きやすさの実現による離職防止
・定休日の設定、職員配置の適正化
②職員アンケートの実施
・76.9%の職員が現在の仕事に充実感を得ている
③“トライ＆エラー”で業務改善を習慣化
・役割の可視化と日常業務の標準化

＜今後の課題＞

●2030 年を見据えた事業所運営
・介護にとどまらない福祉サービスへ
・地域で促進する全世代型 ACP
・“地域や社会の持続性”という視点

＜参考資料など＞

USJ を劇的に変えた、たった 1 つの考え方(森岡毅)
「バックキャスト思考」で行こう！(石田秀輝他)

富竹の里アニュアルレポート 2025　→